



2010.11.4

2010年度第2四半期
決算説明会



東洋紡
取締役社長
坂元龍三

決算のポイント

上期実績

- 営業利益、経常利益ともに大幅増益。リーマンショック前を超える
 - 液晶、電子部品、自動車関連の数量回復・拡大
 - 新製品投入などポートフォリオ改革で収益力アップ
 - 生活・安全、環境、ライフサイエンスも需要堅調
- 事業利益は好調も、株式評価損により当期利益マイナス

通期見通し

- 液晶、自動車、為替影響など不透明感あるも、生活・安全、環境、ライフサイエンスの堅調持続で、通期利益は前回見通しどおり

(億円)

	08年度		09年度		10年度	
	上	下	上	下	上	下予想
売上高	2,025	1,648	1,549	1,639	1,697	1,703
営業利益	97	15	30	85	109	111



I . 2010年度第2四半期累計決算概況

(1) 決算概要

(億円)

	08上	09上	09下	10上		計画 (2010/8)
				Q1	Q2	
売上高	2,025	1,549	1,639	822	876	1,697
営業利益 (営業利益率)	97 4.8%	30 1.9%	85 5.2%	45 5.4%	65 7.4%	109 6.5%
経常利益	68	13	62	40	49	89
当期純利益	-56	-6	26	-25	6	-19
減価償却費	95	101	103	46	46	92
設備投資	114	90	62	21	33	54
営業CF	-40	121	170	88	91	179
為替レート(円/US\$)	106	96	90	92	86	89
国産ナフサ価格(千円/KL)	78	38	45	49	44	46

(2) 財務指標

•資産効率重視の経営を継続。借入金圧縮進む。

(億円)

	09/3末	10/3末	10/9末
総資産	4,438	4,384	4,217
うち棚卸資産	758	625	624
純資産	1,340	1,311	1,270
自己資本	983	1,071	1,030
(自己資本比率)	22.1%	24.4%	24.4%
少数株主持分	357	240	240
有利子負債	1,789	1,710	1,610
D/E レシオ	1.82	1.60	1.56
(営業利益ROA)	2.5%	2.6%	5.2%

I . 2010年度第2四半期累計決算概況

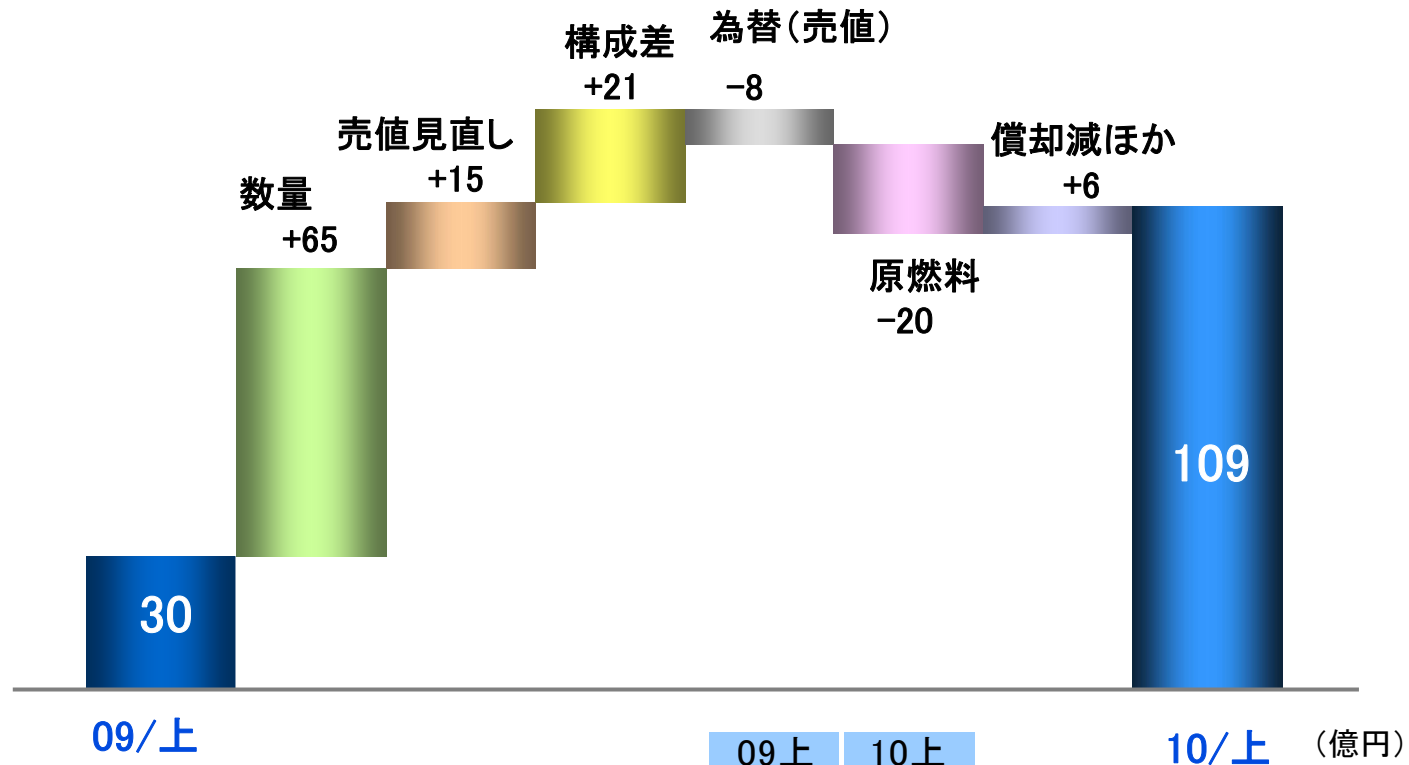
(3) セグメント別

(億円)

	売上高				営業利益			
	08上	09上	09下	10上	08上	09上	09下	10上
フィルム・機能樹脂	697	553	597	640	48	12	49	69
産業マテリアル	416	287	344	345	29	7	16	24
ライフサイエンス	170	157	167	149	19	17	23	17
スペシャルティ計 (営業利益率)	1,283	997	1,108	1,135	96 7.5%	36 3.6%	88 8.0%	110 9.7%
衣料繊維	599	459	425	443	10	2	2	3
不動産・その他	143	93	107	120	9	7	11	12
消去・全社	-	-	-	-	-18	-16	-17	-15
合計	2,025	1,549	1,639	1,697	97	30	85	109

(4) 営業利益増減要因分析 (前年同期比)

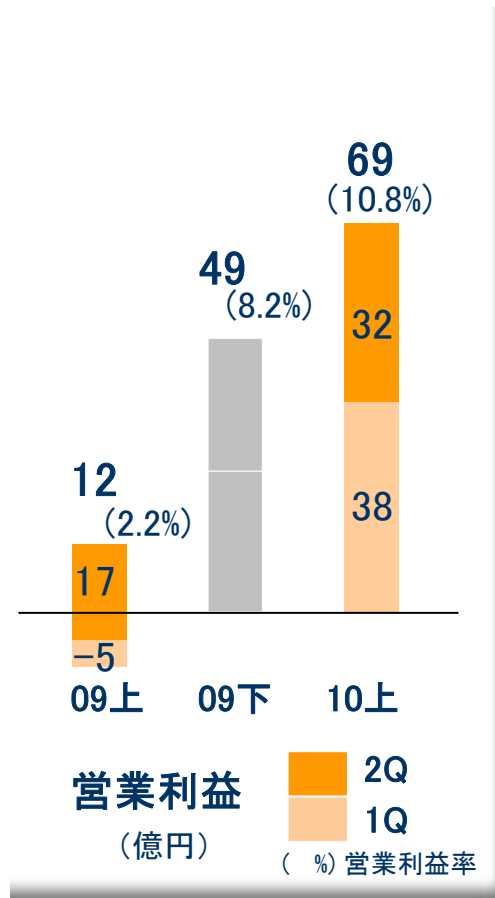
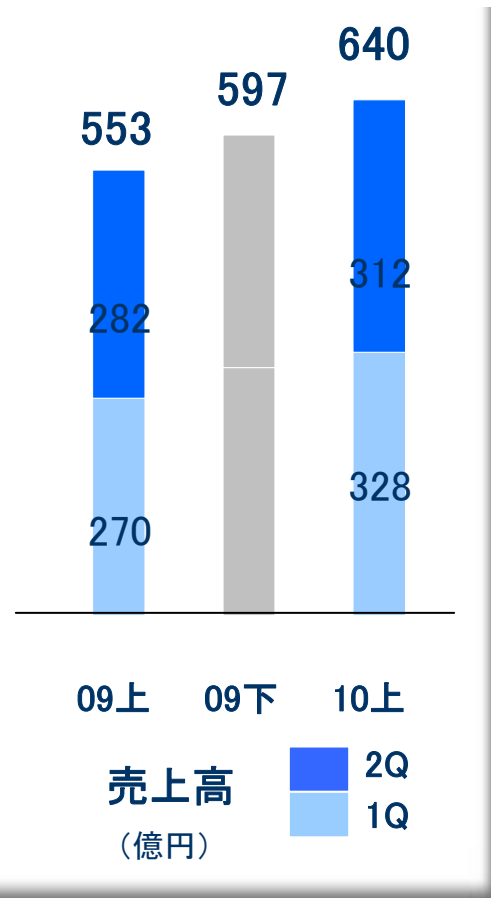
【09年度上半期→10年度上半期】



	09上	10上
円レート (¥/\$)	96	89
国産ナフサ (千円/kl)	38	46

(5)セグメント別 ①フィルム・機能樹脂

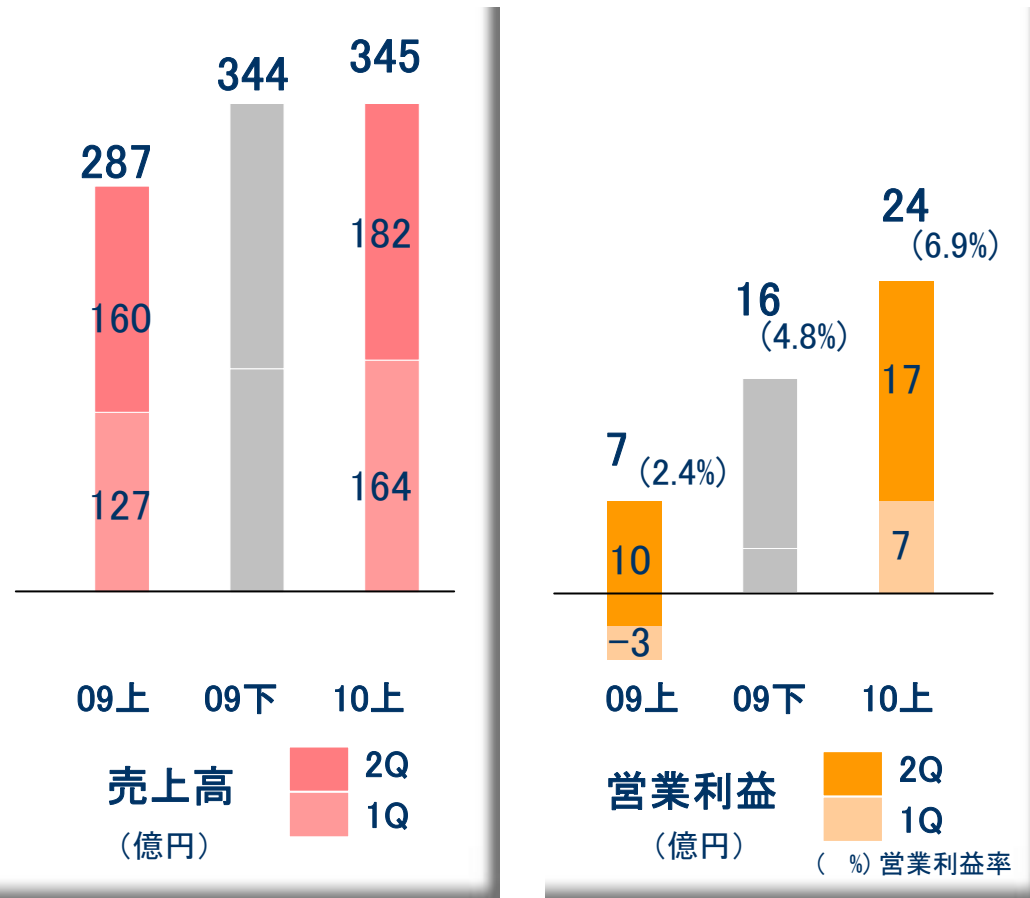
液晶向けほか工業用フィルムの数量拡大
包装用フィルム、工業用接着剤「バイロン」堅調



- **工業用フィルム**
FPD、電子部品向けの数量増
太陽電池バックシート用フィルム上市
- **包装用フィルム**
食品包装用は出荷堅調
シュリンクフィルムで新製品投入
- **機能樹脂**
バイロンは海外拡販進展
エンプラは自動車向け数量増

② 産業マテリアル

機能フィルター出荷堅調、ダイニーマ新設備稼動
エアバッグ、スパンボンドなど自動車関連は数量回復

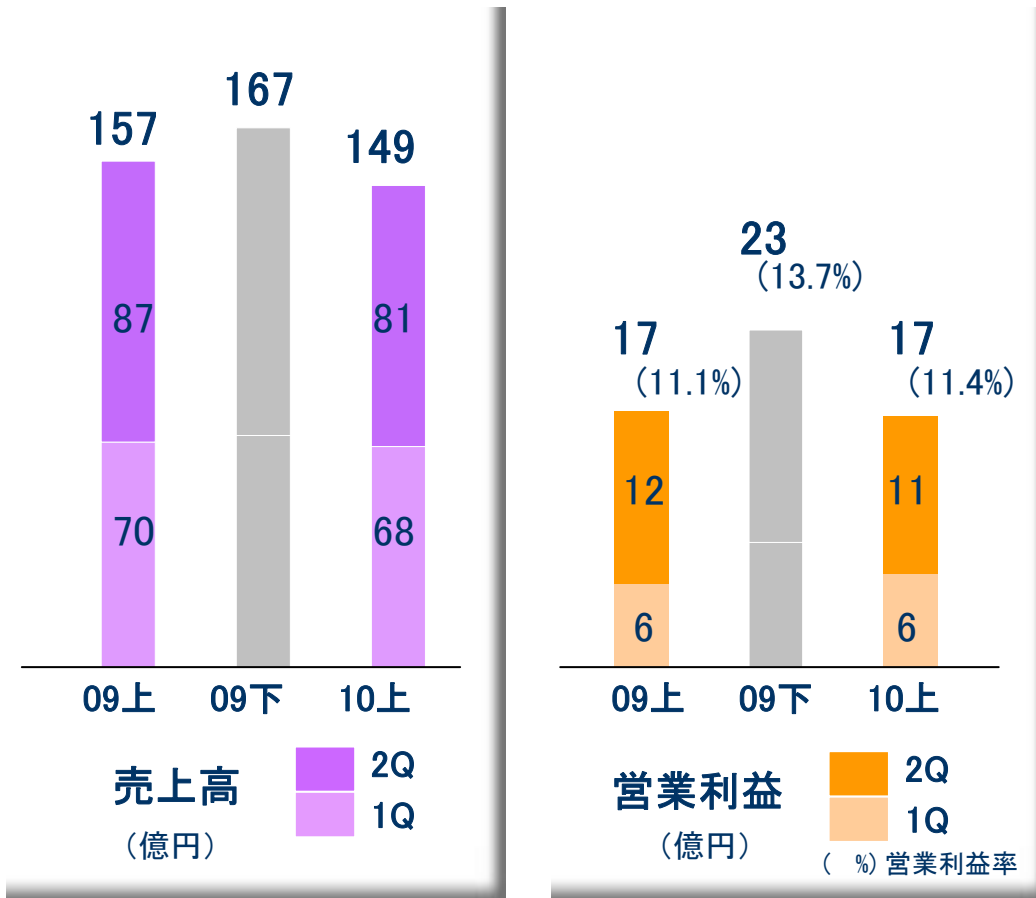


- **機能フィルター**
事務機器、自動車用フィルター好調
溶剤回収装置の海外開拓進展
- **スーパー繊維「ダイニーマ」**
10年6月から新機台稼動
(日本ダイニーマ)
- **スパンボンド**
生産体制効率化で収益改善

③ ライフサイエンス

バイオは、円高影響あるも増収

医用膜は、国内薬価改定影響も、海外向け堅調



● バイオ

血糖モニター用酵素は輸出堅調
診断システムは新製品上市

● 医薬

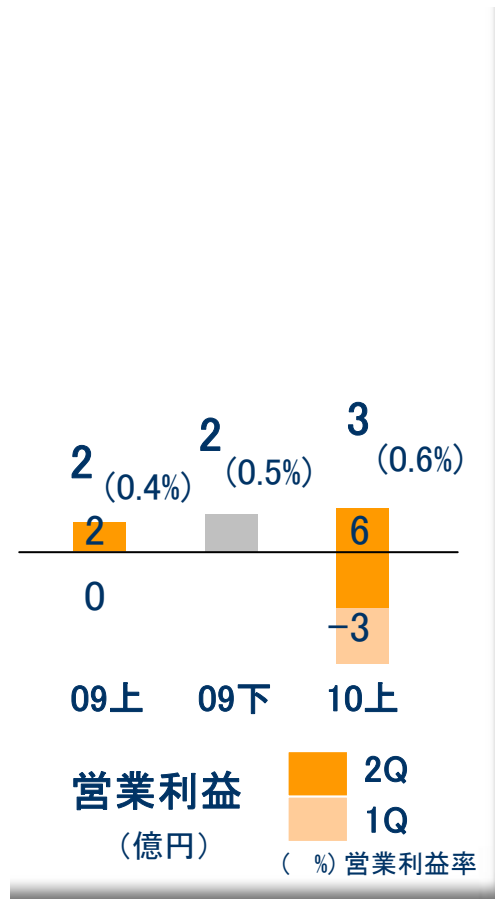
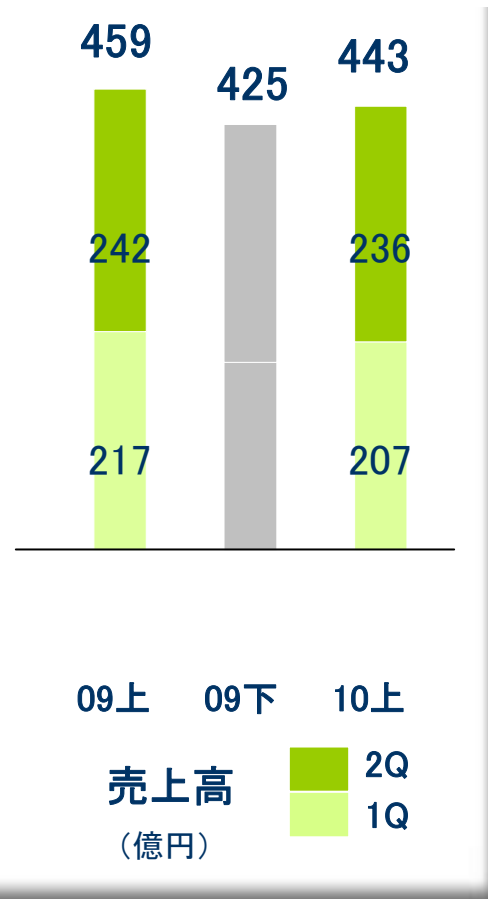
受託は順調に拡大

● アクア膜

交換膜需要堅調、為替影響あり
大型案件に採用決定

④ 衣料繊維

機能衣料によるスポーツアパレルとの取り組み拡大
百貨店向けほか一部消費停滞の影響あり



- 東洋紡STC (繊維)
スポーツ、インナーなどの機能衣料堅調
- アクリル繊維
国内外の需要堅調も原料高と為替で苦戦
- 御幸毛織
生産拠点移設

2010年度業績予想

(1) 業績予想

・不透明感を織り込み、通期利益は前回見通しどおり

(億円)

	09年度実績			10年度予想			計画 (2010/8)
	上	下		上実績	下予想		
売上高	1,549	1,639	3,188	1,697	1,703	3,400	3,500
営業利益	30	85	115	109	111	220	220
(営業利益率)	1.9%	5.2%	3.6%	6.5%	6.5%	6.5%	
経常利益	13	62	74	89	101	190	190
当期純利益	-6	26	21	-19	69	50	50
減価償却費	101	103	204	92	93	185	
設備投資	90	62	152	54	86	140	
為替レート(円/US\$)	96	90	93	89	80	84	
国産ナフサ価格(千円/KL)	38	45	41	46	45	46	

Ⅱ. 2010年度業績予想

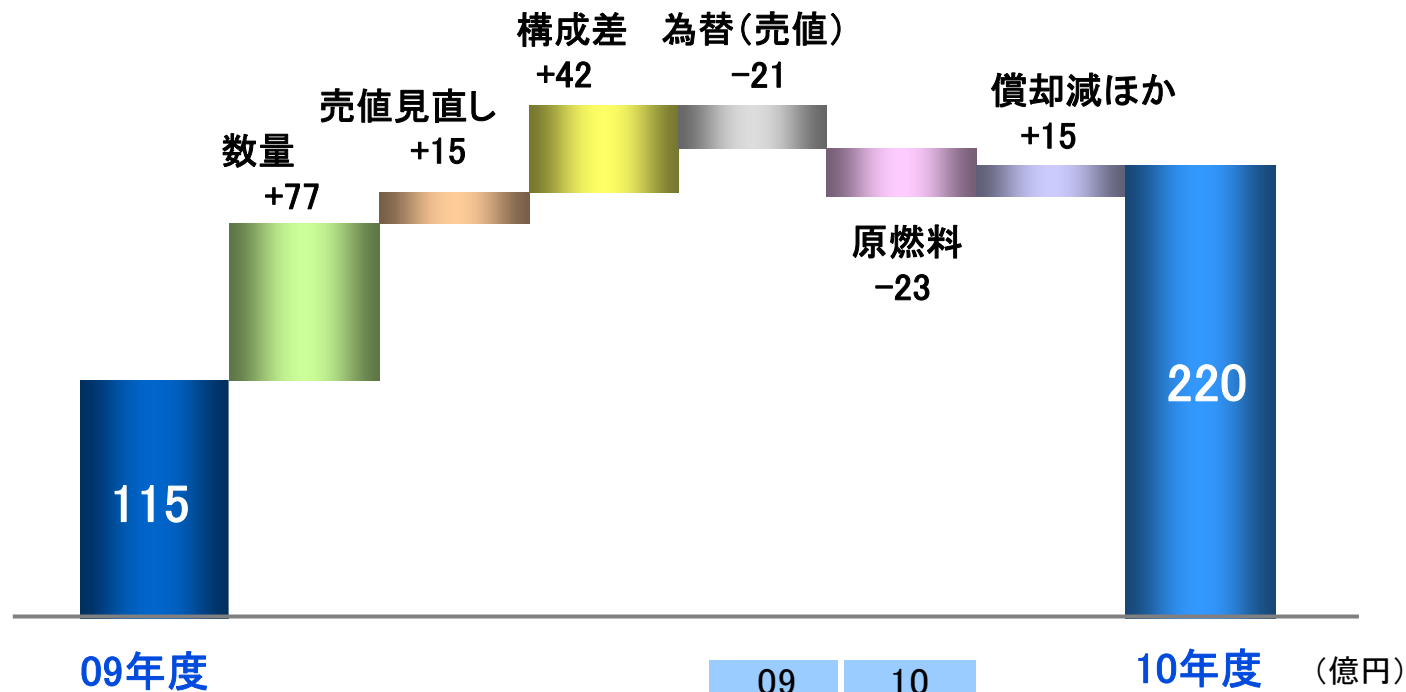
(2) セグメント別内訳(予想)

(億円)

	売上高				営業利益			
	09年度	10年度予想		09年度	10年度予想			
		上期	下期		上期	下期		
フィルム・機能樹脂	1,149	640	630	1,270	61	69	61	130
産業マテリアル	632	345	375	720	23	24	26	50
ライフサイエンス	324	149	160	310	40	17	23	40
スペシャルティ計	2,105	1,135	1,165	2,300	125	110	110	220
衣料繊維	884	443	407	850	4	3	3	6
不動産・その他	199	120	131	250	18	12	12	24
消去・全社	-	-	-	-	-32	-15	-15	-30
合計	3,188	1,697	1,703	3,400	115	109	111	220

(3) 営業利益増減要因分析 (予想)

【09年度→10年度】

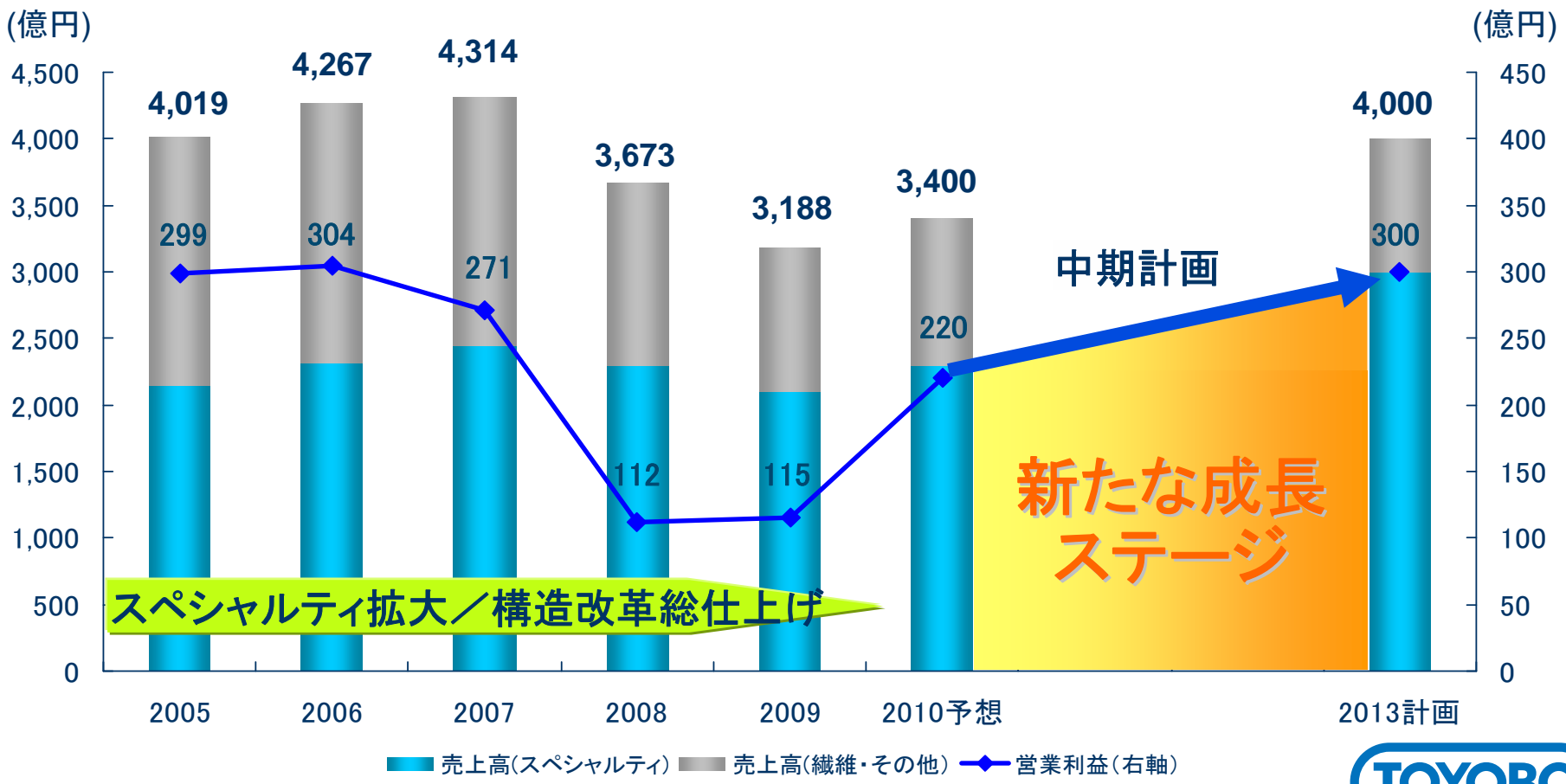


	09	10
円レート (¥/\$)	93	84
国産ナフサ (千円/kl)	41	46

中期計画進捗

(1) 現状認識と中期構想

めざす姿 : 「環境、ライフサイエンス、高機能で、
新たな価値を提供するカテゴリートップ企業」



(2) 戦略とアクションプラン

戦略

- 不断の事業ポートフォリオ改革
(→成長性、収益性・効率、安定性)
- スペシャルティ事業の積極拡大

アクションプラン

- 1) 能力増強
- 2) 海外拡販
- 3) 製品ポートフォリオ改革
- 4) 資産効率の改善

(3) めざす姿(数値イメージ)

	10年度 予想	→	13年度 計画
売上高	3,400		4,000
うちスペシャルティ (構成比)	2,300 68%		3,000 75%
営業利益	220		300

(億円)

- ・設備投資： 650 億円 (今後4年間累計)
- ・研究開発費： 400 億円 (今後4年間累計)

- 成長性： スペシャルティ事業 年率約8%成長
- 収益性・効率： ROA(営業利益／総資産) 約8%をめざす
- 安定性： D/Eレシオ1.0倍をめざす(E=少数持分含まず)

(4) アクションプランと進捗状況

■ アクションプラン

1) 能力増強

2) 海外拡販

3) 製品ポートフォリオ改革

4) 資産効率の改善

■ 進捗状況

- ・工業用フィルム新ライン増設計画
- ・塩素化PP樹脂能力拡大 ('11/下稼働)
- ・フィルム機台改造 ('10/12稼働)

- ・海外比率: 19%('09/上) → 23% ('10/上)
- ・エアバッグ中国展開計画
- ・アクア膜サウジアラビアJV ('11/7稼働)

- ・バイオマス高融点ポリアミド ('11/1稼働)
- ・太陽電池バックシート用フィルム
- ・診断システム(免疫診断、遺伝子診断他)

- ・全社ROA: 2.6%(09) → 5.2% ('10/上)
- ・衣料繊維の使用総資本圧縮進展

補足資料

補1) 訴訟関連

<概要>

- ① 2003年6月、ザイロン繊維使用の防弾ベスト事故(米国ペンシルバニア)(貫通事故は1件のみ)
- ② 事故被害者、同種ベスト購入者等が、防弾ベストメーカー、当社に損害賠償請求を提起
- ③ 防弾ベストメーカーの元取締役が米国不正請求禁止法に基づく訴訟を提起、
米国政府(司法省)がこの訴訟に原告として参加
- ④ 事故を起こしたメーカー以外の防弾ベストに関しても、米国政府(司法省)が訴訟を提起
- ⑤ 購入者からの集団訴訟は 原告団との和解成立(和解金等(約44億円)05上特損処理)
事故被害者からの訴訟(PL関連訴訟)も、和解により解決
ドイツ州政府からの訴訟は、一審で管轄不存在が認められ、控訴審で和解により解決
- ⑥ セカンドチャンス社との訴訟は、09年11月より法廷審理が開始

<訴訟状況>

(10.11.2現在)

	クラスアクション	PL関連	政府関係		防弾ベストメーカー			政府関係
	購入者	警官	アーカンソー州	米国司法省	セカンドチャンス	ポイントブランク	ファーストチョイス	ドイツ州政府
原告	購入者	警官	アーカンソー州	米国司法省	セカンドチャンス	ポイントブランク	ファーストチョイス	ドイツ州政府
状況	和解成立 (05年10月)	和解成立 (06~07年)	訴状受取後 動きなし	証拠開示 手続	法廷審理	訴状受領	訴状受領	和解成立 (09年2月)
件数	10件	4件	1件	2件	1件	1件	1件	1件



補2) セグメント別目標と課題

		(億円)			
		10 売上高	13 売上高	10→13 増減分	課題
	フィルム・機能樹脂	1,270	1,600	+330	<ul style="list-style-type: none"> ・フィルム：能力増強 ・機能樹脂：海外展開、新製品 ・フィンポリマー：海外拡販、能力増強
	産業マテリアル	720	850	+130	<ul style="list-style-type: none"> ・エアバッグ：海外展開 ・AC：海外拡販 ・スーパー繊維：新設備稼働
	ライフサイエンス	310	550	+240	<ul style="list-style-type: none"> ・アクア膜：サウジJV、新製品 ・バイオ：新設備稼働 ・診断システム：新製品 ・医薬：受託拡大、抗体医薬
スペシャルティ計		2,300	3,000	+700	年率 約8%成長
衣料繊維		850	820	- 30	資産効率重視
不動産・その他		250	180	-70	
合計		3,400	4,000	600	

補3) スペシャルティ事業と展開市場

市場 セグメント	自動車	電子・ 情報表示	環 境	ライフ サイエンス	生活・ 安全
<p>フィルム・ 機能樹脂</p> <p>産業 マテリアル</p> <p>ライフ サイエンス</p>	<p>液晶・光学用 フィルム</p> <p>次世代電子材料</p> <p>高融点ポリアミド樹脂</p> <p>機能樹脂</p> <p>A/B用基布</p> <p>機能フィルター</p> 	<p>液晶・光学用 フィルム</p> 	<p>太陽電池用PETフィルム</p> <p>燃料電池膜</p>  <p>PET新触媒</p> <p>溶剤回収装置</p> <p>機能フィルター</p> <p>水処理膜</p>	<p>医用膜</p> <p>診断システム</p> <p>診断薬用酵素</p> <p>医薬製造受託</p> <p>医薬中間体</p> 	<p>包装用フィルム</p> <p>「ダイニーマ®」</p> <p>「ブレスエアー®」</p> <p>化粧品原料</p> 

本資料取扱い上のご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡績株式会社